

# 院庄小 学校だより

平成27年



3月増刊号  
津山市立院庄小学校



## 学校評価について

本年度も、学校の様子について保護者の皆様にアンケートをお願いいたしました。ご協力ありがとうございました。アンケートの結果から、子どもについての項目の中で成果と課題が見えてきました。これらをまとめた資料をもとに、3/5には、地域の学校関係者（学校評議員・PTA会長）の皆さんに評価をしていただきました。その結果を載せております。平素から子どもたちの様子をよく見ていただけており、様々な面で学校に協力していただいています。皆さんからいただいた貴重なご意見やご指摘を来年度の学校経営に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

## 6年生を送る会

計画・企画・準備そして当日の運営と5年生の初仕事でした。成功させようと一生懸命取り組む姿は、頼もしかったです。各学年の出し物も心がこもっており、感動的でした。6年生の顔の表情が最高によかったです。



平成26年度 津山市立院庄小学校 学校評価書 ～今年度の結果です  
( A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)			分析・改善方策	学校関係者評価
			状況	評価	達成状況	評価	総合評価		
子どもたちにとって「楽しい学校」「楽しい学級」を創る	①わかる授業づくりを行い学力向上をめざす ②喜びや悲しみを共有できる寛容な集団づくりをする	言語活動の充実をめざし、ICT機器を活用して効果的な学習を行う。	教職員研修でもICTを使った授業をどう作り上げていくか研究を行っている。どの教員も日々の授業でICTを効果的に使う授業を目指している。	B	ICTを授業に取り入れることで教員が授業力をあげている。子供たちにとっては、日常的に視覚支援による学習効果をあげている。優良実践校の支援金で特別教室でもICTが使えるように整備した。	A	B	実物投影機での授業は、学習意欲や基礎基本の定着に効果があり、評価できる。ICTを使つての伝える力も育ってきている。ICTを全ての教室で使えるよう整備できた。	
		めあてとまとめののある授業を毎時間行う 宿題等の100%提出(西中ブロック統一取組)。	どのクラスでも意識して「めあて」から「まとめ」へつながる授業をめざし行っている。宿題提出は、きちんと出すように習慣づけをしている。	B	全クラスで定着してきており、その時間の見直しをもって授業に取り組んでいるクラスも多い。宿題などの提出は努力しており、100%提出をめざしている。	B		クラスにより、効果のばらつきがある。これからよりよい授業作りのため努力を続けていく。	
		年間100冊以上の読書達成を行う。	クラスでの担任の呼びかけや学校支援ボランティアの読み聞かせ活動(週1回)が、子どもたちの読書へ向かうきっかけになっている。	B	2学期末現在183名中74名が達成した。200冊以上は11名だった。300冊400冊500冊達成した子もいる	A		読書好きの子供が育つ工夫をしていく。	
		「チャイムははじまりの合図」を合言葉に時計を見ながら動く。	低学年も高学年の様子を見て同じように行動することで習慣を身につけている。	B	子どもたちは時計を見ながら行動が習慣化されてきている。	B		学習規律を守っていくことを徹底していく。	
		毎週水曜日のゆとりタイムには、のびのびと外で遊ぶ。	児童が外で体を動かして遊ぶ姿が多く見られた。「ゆとりタイム」には、教員も運動場に出て遊びの輪の中に入っている。	B	それぞれの遊びをとてもよい表情で楽しんでいる姿が見られる。遊びを通しての人間関係はぐんぐん伸びている。	B		体力作りだけでなく、遊びを通しての人間関係はぐんぐん伸び時間となっており、意義は大きい。	
保護者・地域の方々にとって「安心・安全な学校」を創る	①学習面、生活面すべてで安心して子どもを任せられる信頼関係を構築する	児童が誰にでも気持ちのよい挨拶ができる。	児童会が毎月3日間実施している。月ごとにめあてを決めおこなっている。期間中はどの児童も頑張っている。	B	児童会の取り組みとして、気持ちのよいあいさつがよくなってきている。	A	B	だれにでも気持ちのよい挨拶ができるようにしたい。期間中だけでなく、日常的な習慣にしたい。地域の方へのあいさつが今一歩である。	
		職員室の入室マニュアルを実践し、正しい言葉遣いのきつかけとする。	職員室入室時マニュアルは定着してきている。	B	「学年・名前・用事の内容」を丁寧な言葉で言うことで後に続く言葉も丁寧になってきている。	B		時と場所に合わせた言葉づかいや態度の育成につなげたい。これからも続けていく。	
		くつをきちんと揃える。	3年目の取り組みである。低学年ではくつ箱にかかとを合わせるためのしるしをつけて取り組んでいる。しるしを見ることで、意識してくつをきちんとそろえることができていく。	B	3年目になった高学年にも、意識させることを緩めず取り組みを行っている。くつをそろえることがくつ当り前の行動とさせていく。	A		徹底して続けていく。	
		話をせず、もくもくと掃除を行う。	毎週水曜日の掃除では、黙って掃除を行う「もくもくそうじ」を実践している。	B	ほぼ一年間続けてきた実践で、子どもたちの中でも定着してきている。	B		黙働で動く「心を磨く」時間としたい。	
		院庄地区民生児童委員(10名)との連携を図る。	学校をあげて「民生児童委員と学校との連絡会」を行い、子どもたちや地域の様子を情報交換ができた。日頃の連携もできている。	A	知りたい情報の共有ができていく。必要な児童の支援を個人的にしていたりも、大変なお力添えをいただいている。	A		連携をしっかり続けていく。	
教職員にとって「組織で動く学校」を創る	①校内組織が一枚岩で実働化するようにする	週一回の学校運営の会(校長・教頭・各主任)を行う。	学校行事や学年の様子などを話し合い、情報を共有することができた。	A	とっさに対応しなければならないことにも早急に召集し、対策を練り実行した。	A	A	多忙の中、時間の確保が課題である。	
		全職員(全職種)が経営案を作成する。	経営案等をもとに一年間の分掌の計画について話し合えることができていく。	A	どの職員も自分の職務に誇りを持って取り組むことができている。	A		これからも続けていく。	
		小中連携を推進する。	校長会・教頭会・教務主任の会を開き、学習・生活において連携した取り組みを行っている。情報交換も密にできている。	B	小中連携の全体会を開き、今後の方向性について話し合いが持たれている。	A		小中連携により、足並みをそろえることで児童・生徒に一貫した指導をし、効果をあげたい。	
		保育園・幼稚園・小学校の話し合いを月1回持ち、共通理解を深め、指導を行う。	日常の取り組みについて情報交換を行い、連携に役立っている。	B	後半は、新入児に関する情報交換や次年度の行事予定に関する情報交換ができていく。次年度の実践につなげていく。	A		きめ細やかな情報交換により新入児の小学校入学時の不安の軽減、落ち着いた学習環境づくりに成果を挙げている。	

行事予定変更  
27年度6月参観日

先日、来年度の主な行事予定を配布しておりましたが、6月の参観日の日程を変更させていただきます。  
**6月16日(火) × 6月9日(火)に変更します。**